

DERWENT-ACC-NO: 2000-249708

DERWENT-WEEK: 200022

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Holder for umbrella, canes comprises  
toroidal strap of predetermined length pierced into  
coupling unit which has hook and loop fastener with mutually  
releasable end

PATENT-ASSIGNEE: YOSHIDA KOGYO KK[YOSI]

PRIORITY-DATA: 1998JP-0240301 (August 26, 1998)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PAGES	PUB-DATE	MAIN-IPC
JP 2000060614 A		February 29, 2000	N/A
005	A45B 001/04		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
JP2000060614A	N/A	
1998JP-0240301	August 26, 1998	

INT-CL (IPC): A45B001/04

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000060614A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - The toroidal shaped strap (12) of predetermined length is pierced into a coupling unit (16). The coupling unit consists of hook and loop fastener (26,28) with mutually releasable male and female elements (30,32).

USE - For holding umbrella, canes.

ADVANTAGE - Fixing and detaching the holder is simple. The attachment of holder is reliable and safe.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the isometric view of holder.

Torodial shaped strap 12

Coupling unit 16

Hook and loop fastener 26,28

Male and female elements 30,32

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/12

TITLE-TERMS: HOLD UMBRELLA CANE COMPRISE TOROIDAL STRAP  
PREDETERMINED LENGTH

PIERCE COUPLE UNIT HOOK LOOP FASTEN MUTUAL  
RELEASE END

DERWENT-CLASS: P24

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-187172

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-60614

(P2000-60614A)

(43)公開日 平成12年2月29日(2000.2.29)

(51)Int.Cl.

識別記号

F I

テマコード(参考)

A 4 5 B 1/04

A 4 5 B 1/04

B

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平10-240301

(22)出願日 平成10年8月26日(1998.8.26)

(71)出願人 000006828

ワイケイケイ株式会社

東京都千代田区神田和泉町1番地

(72)発明者 羽柴 清明

富山県黒部市岡9-12

(72)発明者 安井 誠一

富山県黒部市三日市4021

(72)発明者 中村 正敏

富山県魚津市大字大海寺新村2798-19

(72)発明者 中嶋 清

富山県黒部市岡577-38

(74)代理人 100095430

弁理士 廣澤 徹

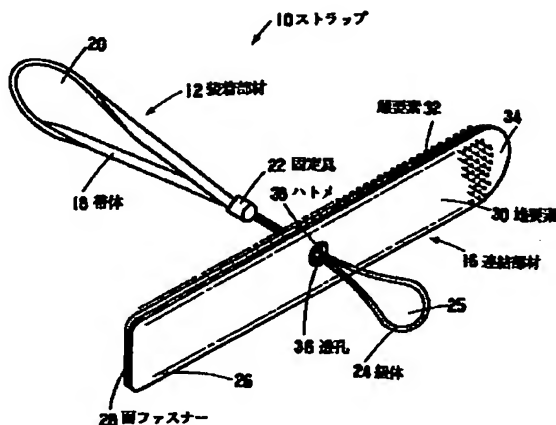
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ストラップ

(57)【要約】

【目的】 支柱への着脱が簡単で、確実に取り付けられるストラップを提供する。

【構成】 所定の長さの帯体18が環状に連結されている装着部材12と、帯状の連結部材16を有する。連結部材16には装着部材12が挿通される孔部36と、この連結部材16の少なくとも両端部が互いに係脱可能な係止部材26、28を備える。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定の長さの帯体(18)が環状に連結されている装着部材(12)と、帯状の連結部材(16)が設けられ、上記連結部材(16)には上記装着部材(12)が挿通される孔部(36)と、この連結部材(16)の少なくとも両端部が互いに係脱可能な係止部材(26, 28)が設けられていることを特徴とするストラップ。

【請求項2】 上記係止部材は、互いに係脱可能な雄要素(30)と雌要素(32)からなる面ファスナー(26, 28)であることを特徴とする請求項1記載のストラップ。

【請求項3】 上記係止部材は面ファスナー(26, 28)で、上記連結部材(16)の一側面には面ファスナー(26)の雄要素(30)が設けられ、この反対側面には面ファスナー(28)の雌要素(32)が設けられていることを特徴とする請求項1または2記載のストラップ。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、傘や杖等の持ち手に取り付けられている環状のストラップに関する。

## 【0002】

【従来の技術】杖や傘の持ち手付近には、使用者が腕を通す環状のストラップが設けられている。従来のストラップは、一本の帯体を環状に折り曲げて固定金具で束ね、リングを介してストラップホルダに固定されていた。ストラップホルダは、杖や傘の支柱の直径よりわずかに小さい環状のエラスティックテープ等で構成されていた。

【0003】そして、このストラップホルダの取付方法は、エラスティックテープを引き伸ばして内径を広げ、支柱を通した後、エラスティックテープの弾性力で支柱の側面を締め付け、これにより固定されるものであった。

【0004】また、ストラップホルダが面ファスナーで構成されたものとしては、実開平7-3328号公報に開示されているような、傘、ステッキ等のストラップ装置があった。このストラップ装置は、帯片の一端部に細長リング状止具が取り付けられ、帯片の一側面には、面ファスナーである一方の接触密着部が取り付けられている。また、帯体の長手方向の所定位置から先端部にかけては、上記一方の接触密着部に密着する他方の接触密着部が設けられている。そして、細長リング状止具には、ストラップが取り付けられている。

【0005】このストラップホルダの取付方法は、一对の接触密着部が杖の柄部の外側に向くようにして帯片を巻回し、帯片の先端を細長リング状止め具に挿通して折り返し、一对の接触密着部を互いに接触させて保持固定している。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】上記従来の技術の前者の場合、エラスティックテープを引き伸ばすにはかなりの力が必要で、指の力の弱い人や老人には取り付けが困難であった。また、構成部品が、ストラップ、固定金具、リング、エラスティックテープの4点からなり、複雑でコストが高かった。そしてエラスティックテープは弾力性を有するゴムで作られているが、長期間の使用によりゴムの劣化が予想され、耐久性が良くないという問題があった。

【0007】また、上記従来の技術の後者の場合、ストラップに手を通して保持し使用した際に、ストラップが杖から離れる方向に力が働き、それにより帯体が引っ張られて接触密着部の係合が外れやすくなる恐れがあった。

【0008】この発明は、上記従来の技術の問題点を鑑みてなされたもので、支柱への着脱が簡単で、確実に取り付けられるストラップを提供することを目的とする。

## 【0009】

【課題を解決するための手段】この発明は、所定の長さの帯体が環状に連結されている装着部材と、帯状の連結部材が設けられているストラップである。上記連結部材には上記装着部材が挿通される孔部と、この連結部材の少なくとも両端部が互いに係脱可能な係止部材が設けられている。また、上記係止部材は、互いに係脱可能な雄要素と雌要素からなる面ファスナーである。

【0010】さらに、上記係止部材は面ファスナーで、上記連結部材の一側面には面ファスナーの雄要素が設けられ、この反対側面には面ファスナーの雌要素が設けられている。そして、装着部材は途中部分が固定具等で束ねられ、二つの環部が設けられても良い。

【0011】この発明のストラップは、装着部材の一部を連結部材の孔部に挿通することにより、装着部材は連結部材を中心に第一環部と第二環部が形成され、第一環部と第二環部の一方に支柱を挿通し、連結部材を支柱に近づけることで第一環部または第二環部の周囲を小さくして仮固定する。そして、連結部材を支柱に巻回し、面ファスナーの雌要素と雄要素を係合させ、同時に支柱に巻いた装着部材を覆って固定する。

## 【0012】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施形態について、図面に基づいて説明する。図1～図6はこの発明の第一実施形態を示すもので、この実施形態のストラップ10は、使用者が保持する装着部材12と、装着部材12を杖や傘等の支柱14に取り付ける連結部材16が設けられている。

【0013】装着部材12は、一本の帯体18を環状に折り曲げて使用者が手や腕を通す第一環部20を有し、この帯体20は、帯体18の両端部が樹脂製の固定具22で束ねられている。固定具22の反対側には、帯体1

8の延長上に突出する細い紐体24が設けられ、紐体24は環状に折り曲げられて第二環部25とし、紐体24の両端部も固定具22で束ねられている。

【0014】連結部材16には、帯状の面ファスナー26、28が表裏に設けられている。一方の面ファスナー26の外側面にはJ字状の雄要素30が一面に形成され、他方の面ファスナー28の外側面にはループ状の雌要素32が一面に形成されている。面ファスナー26、28の一端部は、外側に突出した円弧状に形成され、この端部付近には、雄要素30と雌要素32が設けられていない平面部34が形成されている。連結部材16の中心には孔部36が設けられ、孔部36は金属のリング状のハトメ38が取り付けられている。

【0015】次に、この実施形態のストラップ10の支柱14への取付方法について以下に説明する。まず、装着部材12の紐体24を、連結部材16の孔部36に挿通させ、杖等の支柱14を、紐体24で形成された第二環部25に挿通させる。次に連結部材16を支柱14に近づけ、第二環部25の環状部分の径を小さくすることで支柱14に仮固定する。次に、連結部材16の、平面部34と反対側の半分を支柱14に巻回し、次に残りの半分の、先に巻いた連結部材16に重ねて巻回す。このとき面ファスナー26、28の雄要素30と雌要素32は互いに係合し、ストラップ10は支柱14に本固定される。またストラップ10が不要な場合、ストラップ10を支柱14から取り外すときは、連結部材16の平面部34を指で持ち引き起こすと、雄要素30と雌要素32の係合は簡単に外れ、ストラップを外すことができる。

【0016】この実施形態のストラップ10によれば、紐体24で仮固定し、そのあと連結部材16で本固定が行なわれるため、支柱14への取り付けや取り外しを容易に且つ強固に行なうことができる。さらに、手の不自由な人や力の弱い人でも、簡単に着脱でき便利である。また、種々の長さの装着部材12を用意しておけば、需要者の要望あるいは使用者の用途により適宜選択可能であり、在庫の管理も有利である。そして、使用中に万一連結部材16の係合が外れたとしても、仮固定状態を維持することができ、安全である。そして、構成部品が装着部材12と連結部材16の2点であり、単純で製造コストがかからない。さらにゴム等を使用していないので耐久性にも優れている。また、装着部材12の紐体24が支柱14を一周しているため、装着部材12が支柱から離れる方向への引っ張り力に強い。また、連結部材16は装着部材12と別体であるため、装着部材12が引っ張られても影響を受けず、確実に装着部材12を保持している。また、図1に示すように、外表面が雌要素32となるように連結部材16を装着した方が、直接肌に接触した場合、違和感を与えることがないとともに、衣服等の繊維に引っ掛かることもない。

【0017】なお、この実施形態のストラップ10は、図7に示すように帯体18が環状に設けられた装着部材40を使用しても良い。また、図8に示すように紐体24が環状に設けられた装着部材42で、紐体24の途中に摺動可能な固定具44が設けられていても良い。

【0018】また、この実施形態のストラップ10は、図9、図10に示すように連結部材16の片面に雌要素32が設けられ、連結部材16の外側に突出する円弧状に形成された一端部付近には、雌要素32が設けられている面と反対側の面に、雄要素34が設けられているものでもよい。そして、この連結部材16は、上記各装着部材12、40、42と自由に組み合わせることができる。

【0019】次に、この発明の第二実施形態について図11に基づいて説明する。ここで、上述の実施形態と同様の部材は同一の符号を付して説明を省略する。この実施形態のストラップ50は、支柱14の所定位置に、筒状の面ファスナー28が粘着テープ等で取り付けられ、面ファスナー28の表面には雌要素32が設けられている。そして、連結部材16は支柱14の側面に沿うようにやや湾曲された面ファスナー26で、湾曲の内側面には雄要素30が一面に設けられている。連結部材16のほぼ中心には、透孔36が設けられている。

【0020】次に、この実施形態のストラップ50の支柱14への取付方法について説明する。装着部材12の紐体24を、連結部材16の透孔36に挿通させ、支柱14を紐体24で形成された第二環部25に挿通させる。紐体24を面ファスナー28の途中に当接させ、紐24を支柱14から離れるほうに引きながら、連結部材16を面ファスナー28に被せる。このとき面ファスナー26の雄要素30と、面ファスナー28の雌要素32は互いに係止され、ストラップ10は支柱14に固定される。

【0021】この実施形態のストラップ50によれば、上記の実施形態と同様の効果がある。また、雌要素32を有する面ファスナー28をあらかじめ支柱14に取り付けるため、装着部材12の位置決めが容易である。

【0022】なお、この発明のストラップは、上記各実施形態に限定されるものではなく、図12に示すように、装着部材12の帯体18の一端にナス環52やその他バックル、フック等の連結具を取り付け、身体、例えばズボンのベルトに装着可能としても良い。この場合、使用者が一時的にストラップを手から離しても杖や傘等が倒れず、好都合である。

【0023】さらに、雌要素と雄要素は互いに逆の位置に設けられていても良く、雌要素と雄要素が混在したものを使用しても良い。面ファスナーは、変形が可能であれば射出成形等による成形面ファスナーでも良い。また、連結部材を支柱に取り付ける手段は面ファスナー以外に、複数のスナップあるいはフック&アイ等、確実

5

に係合されるものでもあれば適宜変更可能である。さらに、この発明のストラップは、傘や杖以外に種々の部材に取り付け使用することができる。

【0024】

【発明の効果】この発明のストラップは、杖や傘等の支柱への着脱が容易で、また確実に支柱に取り付けることが可能である。紐体で仮固定し、連結部材で本固定しているため、両方の部材が同時に外れることはなく、安全である。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の第一実施形態のストラップの斜視図である。

【図2】この実施形態のストラップの斜視図である。

【図3】この実施形態のストラップの横断面図である。

【図4】この実施形態のストラップの連結部材の拡大断面図である。

【図5】この実施形態のストラップの使用状態を示す斜視図である。

【図6】この実施形態のストラップの他の使用状態を示す斜視図である。

【図7】この実施形態のストラップの装着部材の変形例の斜視図である。

6

【図8】この実施形態のストラップの装着部材の変形例の斜視図である。

【図9】この実施形態のストラップの連結部材の変形例の正面図である。

【図10】この実施形態のストラップの連結部材の変形例の平面図である。

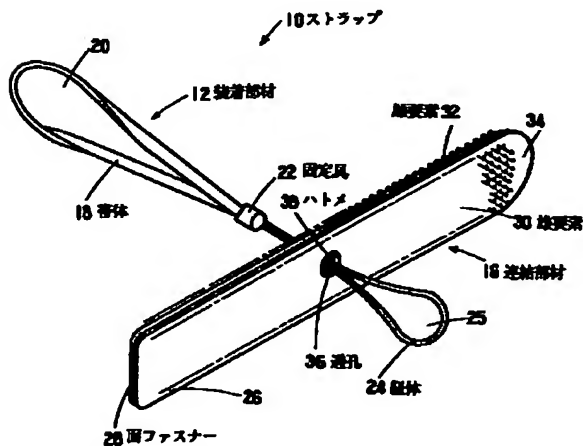
【図11】この発明の第二実施形態のストラップの斜視図である。

【図12】この発明のストラップの他の実施形態の使用法を示す斜視図である。

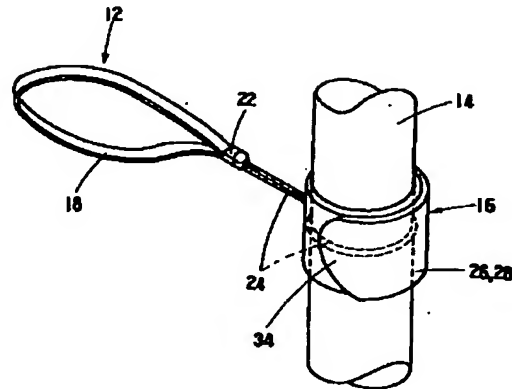
【符号の説明】

- |        |        |
|--------|--------|
| 10     | ストラップ  |
| 12     | 装着部材   |
| 16     | 連結部材   |
| 18     | 帯体     |
| 22     | 固定具    |
| 24     | 紐体     |
| 26, 28 | 面ファスナー |
| 30     | 雄要素    |
| 32     | 雌要素    |
| 36     | 透孔     |
| 38     | ハトメ    |

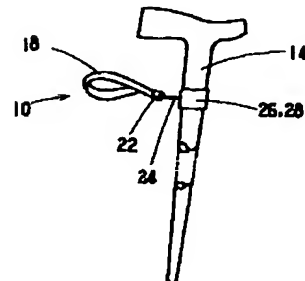
【図1】



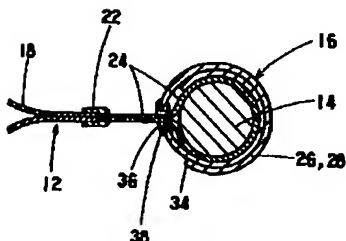
【図2】



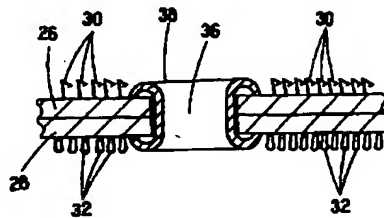
【図5】



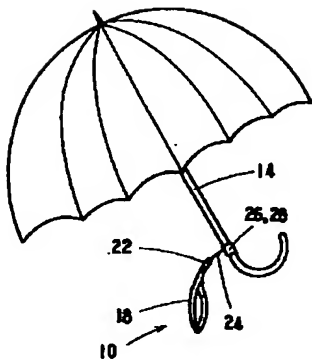
【図3】



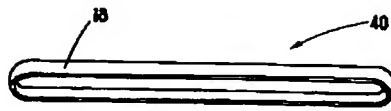
【図4】



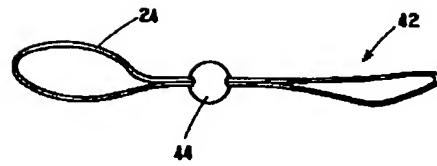
【図6】



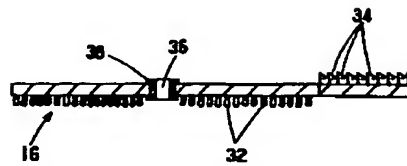
【図7】



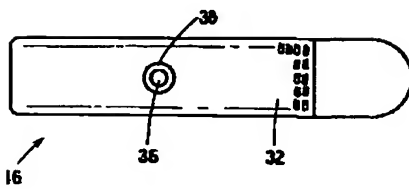
【図8】



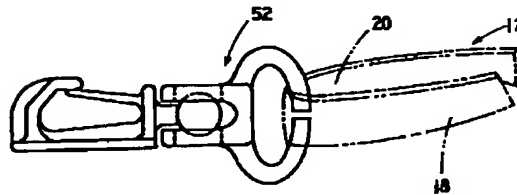
【図10】



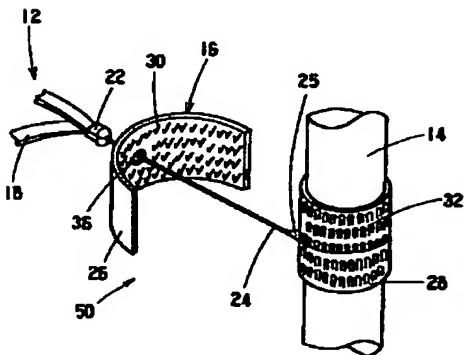
【図9】



【図12】



【図11】



フロントページの続き

(72)発明者 土肥 正志  
富山県滑川市赤浜30-2